



「車輪への巻き込み」が多発！

～安全な自転車ライフを送るために確認すべき**5**つのポイント～

新年度が始まり、通勤や通学手段として新たに自転車に乗り始める人が増える季節になりました。

独立行政法人製品評価技術基盤機構 [NITE (ナイト)、理事長：長谷川 史彦、本所：東京都渋谷区西原] は自転車の事故に遭わないために注意喚起を行います。



傘が前輪へ巻き込まれ前輪がロック



固定が不十分のため前輪が外れて転倒

NITE に通知があった製品事故情報^{※1}では、2019年から2024年までの6年間に自転車の事故^{※2}は502件ありました。そのうち約8割は重傷事故となっており、年代別の事故件数では10歳代の事故が目立っています。また、2025年3月にNITEが行った自転車でのヒヤリハット・事故の経験についてのアンケート調査(別紙2)では、「車輪への物等の巻き込み」が最多となっています。

自動車と異なり免許なし、法定点検不要で手軽に利用できる自転車ですが、転倒や衝突をすると、自分自身や周囲の方にも大きなけがを負わせる可能性があります。また、昨年には自転車に関する道路交通法が改正され、自転車を取り巻く環境が変化しました。

年度初めのこのタイミングで、今一度安全に自転車を使用するためのポイントを確認しましょう。

【自転車で気を付けるポイント】

- ハンドルや手首等にもものをぶら下げない
- ブレーキの効き具合は必ず確認する
- チェーンの状態を確認する
- 乗車前に車輪やハンドルまわり、ペダルの緩みやがたつきを確認する
- リコール情報を確認する

■別紙3に「自転車の点検チェックリスト」を掲載しています。こちらもぜひご確認ください。

(※) 本資料中の全ての画像は再現イメージであり、実際の事故とは関係ありません。

(※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故を含みます。

(※2) 電動アシスト自転車用バッテリーに起因する発火、焼損等の事故は除きます。

自転車の対象製品

一般自転車

・小径車



・幼児用座席装着自転車



・子供用自転車



・シティサイクル



スポーツ車

・クロスバイク



・マウンテンバイク



・ロードバイク



折りたたみ自転車



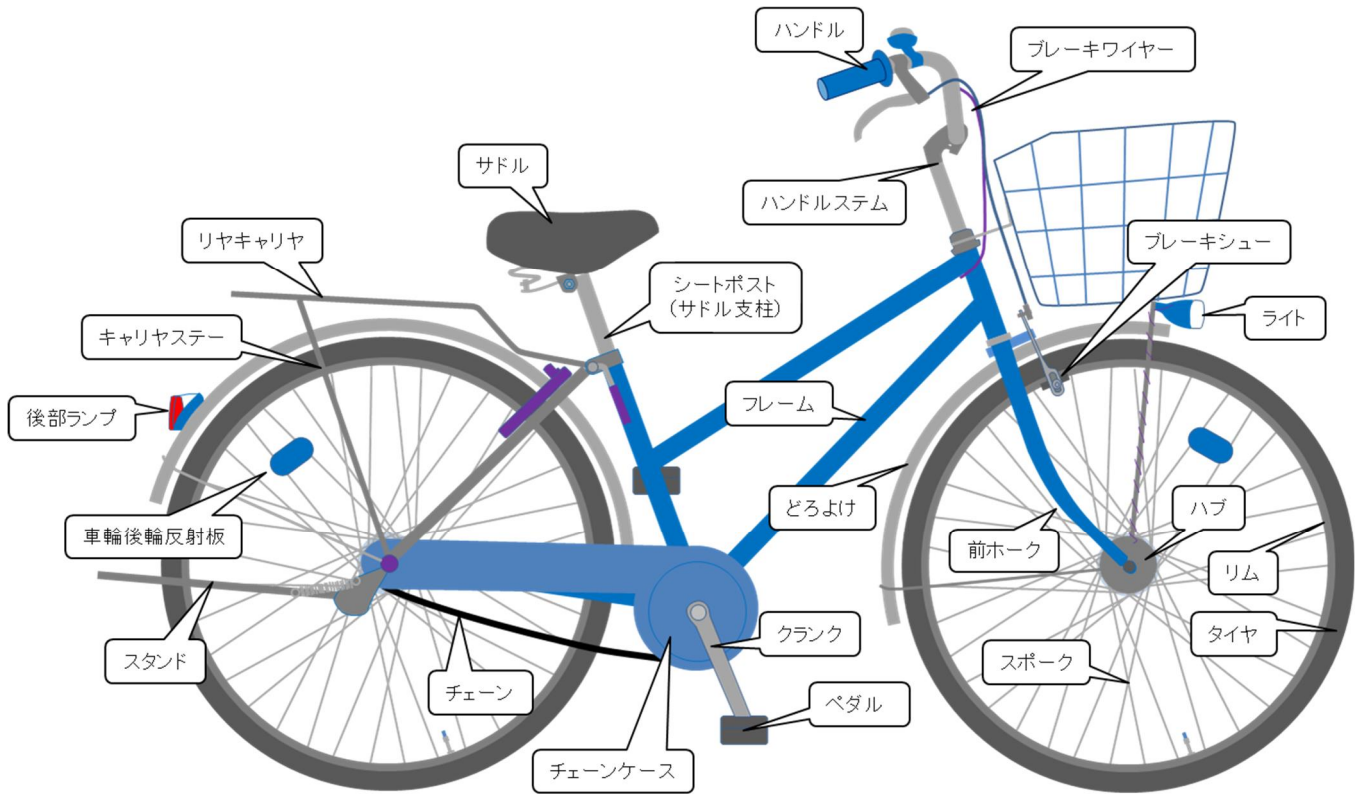
電動アシスト自転車

・幼児用座席装着タイプ

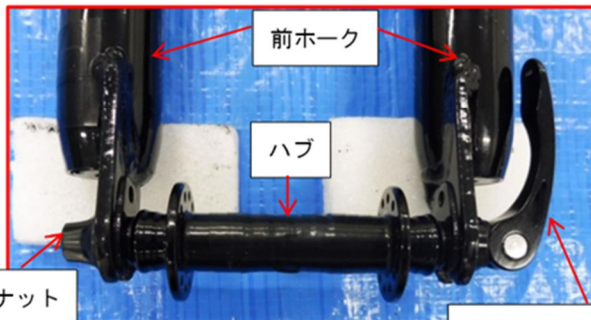


※イラストは道交法における安全装置を省略しています。

自転車 各部の名称



クイックリリース方式のスポーツ車



クイックリリース方式のハブ（車軸）の各部名称

クイックリリースカムレバー

1. 事故の発生状況

NITE が受け付けた製品事故情報のうち、2019 年から 2024 年までの 6 年間に発生した自転車の事故 502 件について、事故発生状況を以下に示します。

1-1. 年別の事故発生件数

自転車の事故 502 件について、年別の事故発生件数を図 1 に示します。2019 年 6 月にハンドルロックについてのリコールが実施されており、その付近では多数のリコール対象製品^{※3}での事故が発生しています。リコール対象製品での事故を除くと、毎年ほぼ横ばいで事故発生件数が推移しています。

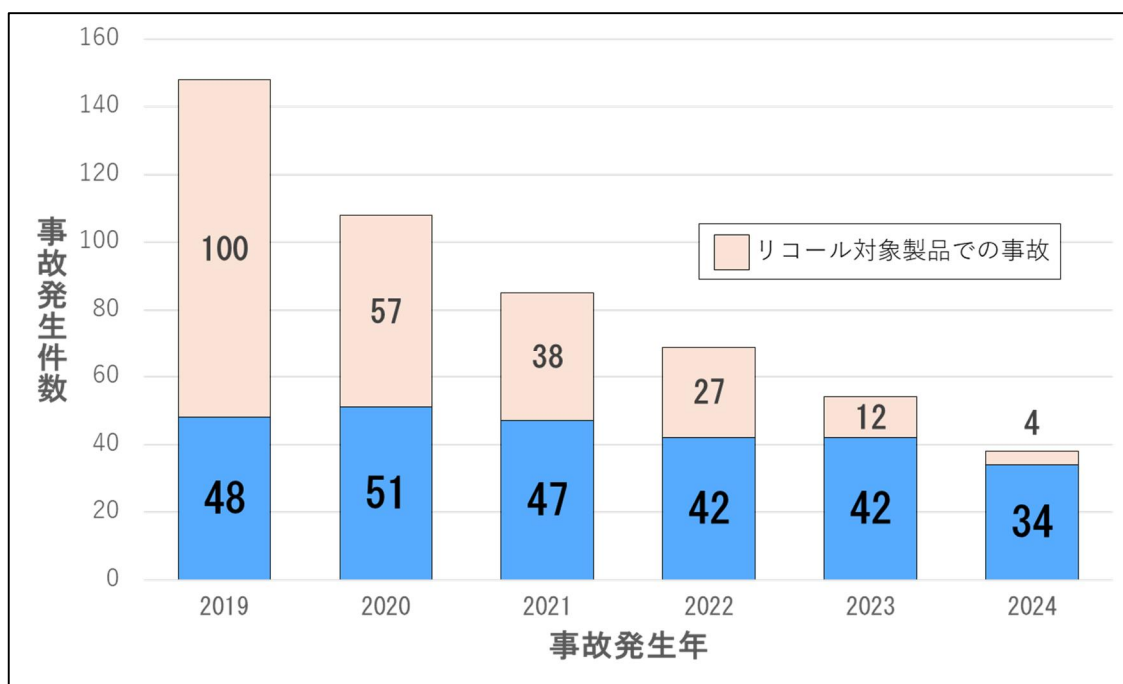


図 1 年別の事故発生件数

(※3) 事業者が消費生活用製品による事故の発生及び拡大の可能性を最小限にすることを目的に行う、製品の回収、交換、点検、修理、注意喚起などのことをリコールと呼びます。本資料では、経済産業省または NITE で公表しているリコールの対象製品に限ります。

1-2. 事故の被害状況

自転車の事故 502 件における被害状況別の事故件数を表 1 に示します。自転車の事故では重傷の事故が多くなっています。

表 1 被害状況別の事故件数^{※4}

被害状況		2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	総計
人的被害	死亡							0
	重傷	126 (126)	94 (95)	72 (72)	55 (55)	45 (45)	25 (25)	417 (418)
	軽傷	22 (22)	11 (11)	12 (12)	12 (12)	5 (5)	4 (4)	66 (66)
物的被害	製品破損		2	1	2	4		9
被害なし・不明			1				9	10
総計		148	108	85	69	54	38	502 (484)

(※4) () は被害者数。物的被害（製品破損または拡大被害）があった場合でも人的被害のあったものは、人的被害に区分している。また、人的被害（死亡・重傷・軽傷）が複数同時に発生している場合は、最も重篤な分類で事故件数をカウントし、重複カウントはしていません。

1-3. 年代別の事故発生状況

自転車の事故 502 件のうち、被害者の年代が判明したものについて、年代別の事故発生件数を図 2 に示します。10 歳代の事故が最も多くなっています。

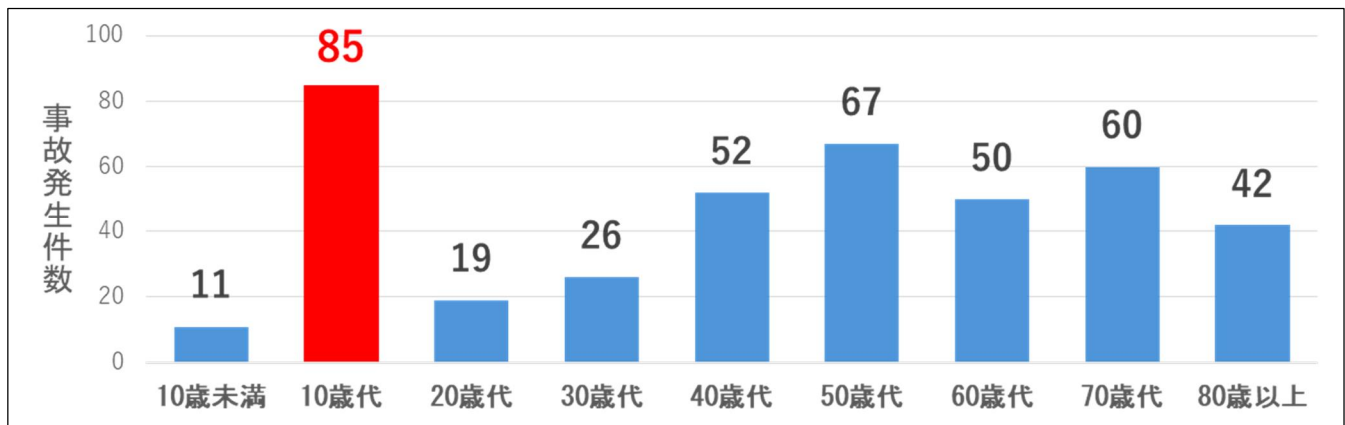


図 2 年代別の事故発生件数

1-4. 事故事象別の事故発生状況

自転車の事故 502 件のうち、事故発生時の状況が判明したものについて、件数の多い主な事故事象を表 2 に示します。

事故の多い「ハンドルがロックした」はほとんどがリコール対象製品による事故です（詳細は別紙 5）。また、前輪に袋等を巻き込んで前輪がロックして転倒する事故も多く発生しています。

表 2 事故事象別の事故発生状況

事故事象	被害状況			総計	うち リコール
	重傷	軽傷	製品 破損		
ハンドルがロックした	108	16		124	115
前輪がロック	33	5		38	
フレームやリムの破損・破断	15	18	2	35	22
壁等に衝突	14			14	
チェーン外れや破断	6	1		7	
前輪が外れた	4	2		6	

2. 事故事例

■ 走行中にハンドルが動かなくなり、転倒してけがを負った（リコール対象製品による事故）

事故発生年月 2024年9月（神奈川県、10歳代・女性、重傷）

【事故の内容】

電動アシスト自転車で走行中、ハンドルがロックし、転倒、負傷した。

【事故の原因】

電動アシスト自転車には、後輪の施錠でハンドルがロックされる機構が搭載されていたが、ハンドルロックのケースが破損すると内部のロックレバーが振動等で動いて、意図せずロックが掛かる危険性があり、ハンドルロックのケースが破損していた状態で走行した際に突然ハンドルがロックしたものと推定される。

【再発防止措置】

製造事業者は、2019年6月24日より対象製品について無償点検及び保護対策済品への改修を実施している。（詳細は別紙5）

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】

自転車 ハンドルロック

■ 前輪がロックして転倒した事故

事故発生年月 2022年11月（京都府、10歳代・男性、重傷）

【事故の内容】

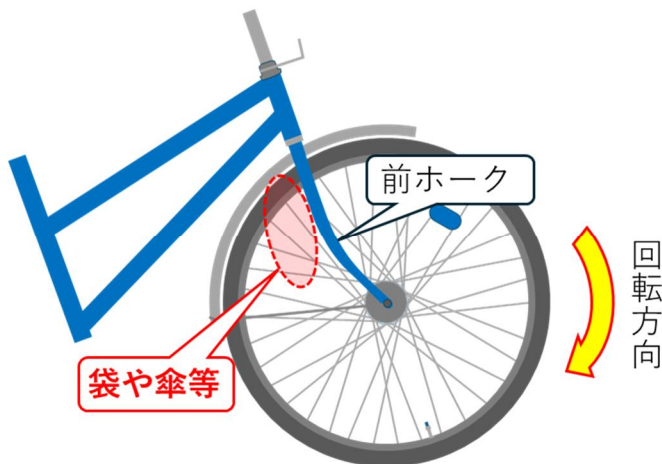
自転車で走行中、前輪がロックし、転倒、右肘を負傷した。

【事故の原因】

事故発生時の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、自転車の前ホークが変形し、内側に擦り傷が認められ、前輪スポークの1本が破断していたことから、走行中に前輪へ袋や傘等が巻き込まれた可能性が考えられる。

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】

自転車 前輪 ロック



袋や傘等を巻き込んで前輪がロックする状況



（参考）袋を巻き込んだ場合

■スポーツ車の前輪が外れて転倒した事故

事故発生年月 2022年4月（京都府、40歳代・男性、重傷）

【事故の内容】

自転車で走行中、段差を乗り越えたところ、前輪が外れ、転倒し、負傷した。

【事故の原因】

事故発生時の詳細な使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、自転車に車輪の外れに至る異常は認められないことから、前輪のクイックリリースカムレバーによる固定が不十分であったため、前輪の固定力が低下したことで前輪が外れて転倒したものと考えられる。

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】

自転車 クイックリリース

3. 気を付けるポイント

自転車で気を付けるポイント

○ハンドルや手首等にもものをぶら下げない

ハンドルや手首等買い物袋、かばん、傘などをぶら下げていると、車輪に巻き込まれて車輪がロックされ、バランスを崩して転倒するおそれがあります。荷物はハンドル等にぶら下げたりせず、かごに入れてください。



傘が前輪に巻き込まれる状況



買い物袋が前輪に巻き込まれる状況

○ブレーキの効き具合は必ず確認する

ブレーキの効きが甘い状態で走行を続けると、制動不良などによって転倒するおそれがあります。また、歩行者などと衝突したり巻き込んだりするおそれもあるため、必ず乗車前にブレーキの効きを確認してください。自転車から降りた状態でブレーキレバーを握って車体を前後に動かし、すべりがないかなどを確認してください。

ブレーキレバーを握った際に効きが甘かったり、逆に固すぎたりする場合は調整が必要です。ご自身で調整を行うか、自転車技士又は自転車安全整備士のいる店舗に相談してください。

○チェーンの状態を確認する

自転車のチェーンは、走行するにつれ徐々に伸びて、たるみが発生します。走行中にチェーンから異音（金属がこすれるような音など）がする場合は、たるんだチェーンがチェーンケースなどに接触しているおそれがあります。また、チェーンがさびている場合は、劣化が進行したり、脆くなってチェーンが切れたりする可能性があります。チェーンが伸びた場合やさびがひどい場合は、自転車の販売店などに相談してください。

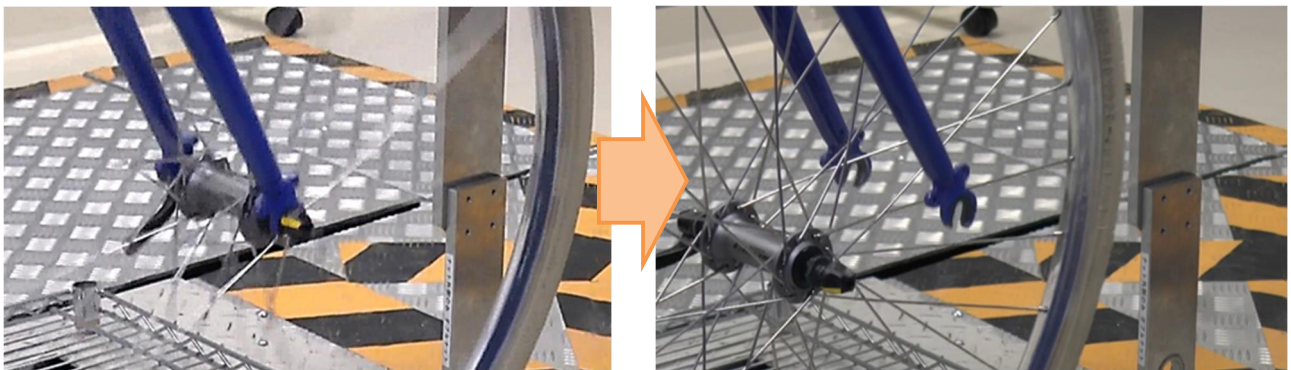


チェーンがたるんでいないか確認

○車輪やハンドルまわり、ペダルの緩みやがたつきを確認する

車輪やハンドルまわり（ハンドル、ハンドルステム等）、ペダルに緩みやがたつきがないか確認してください。適正なトルクで締め付けられていないと、走行中に車輪やハンドルまわりが緩んでくる可能性があります。

また、インターネットで自転車を購入すると、ハンドルやペダル、車輪などが取り付けられていない状態で購入者の元に届くことがあり、その場合は乗車前の組み立ては購入者が行うこととなります。特に、スポーツ車の車輪の取り付けには、クイックリリース方式が多く採用されており、事例にも挙げたように、クイックリリースカムレバーの調整が不十分なまま走行して事故に至ったケースがあるため、注意が必要です。必ず、取扱説明書等に記載されている正しい方法で車輪を固定してください。



クイックリリース方式の車輪で調整ナットの締め付けのみで固定し走行中に車輪が外れる状況

事故事例・リコール情報を確認

○リコール情報を確認する

自転車の事故の中には、リコールが開始された後に発生したものもあります。お持ちの製品がリコール対象になっていないか今一度ご確認ください。

リコール対象となっている製品をお持ちの場合は、不具合が生じていなくても直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店や製造・輸入事業者を確認や相談をしてください。そのまま使い続けられないようにしてください。

【NITE SAFE-Lite (ナイト セーフ・ライト) のご紹介】

NITE はホームページで製品事故に特化したウェブ検索ツール「NITE SAFE-Lite (ナイト セーフ・ライト)」のサービスを行っています。製品の利用者が慣れ親しんだ名称で製品名を入力すると、その名称（製品）に関連する事故の情報やリコール情報を検索することができます。

また、事故事例の【SAFE-Lite 検索キーワード例】で例示されたキーワードで検索することで、類似した事故が表示されます。



<https://www.nite.go.jp/jiko/jikojohou/safe-lite.html>

※製品事故情報を収集し、公開して広く社会で共有して、事故原因の分析・評価や再発防止に活用していくことは重要です。そうした事故情報が活用されて、従来の基準が見直され、安全性の向上した新基準での製品が生まれ、流通・販売されることで、関連事故の減少につながります。

もし製品事故に遭われた場合には、消費者の皆さんは購入先（販売事業者）やメーカー（海外製品であれば輸入事業者等）または消費者ホットライン「188」（最寄りの消費生活センターや消費生活相談窓口）に、また、流通・販売事業者におかれてはそうした製品事故情報を知った場合には当該製品のメーカー等に、それぞれ報告いただくようご協力をお願いします。

【消費者庁のリコール情報検索サイトのご紹介】

「消費者庁リコール情報サイト」では、消費者向け商品のリコール情報を掲載しており、キーワードによりリコール情報を検索することができます。さらに、「リコール情報メールサービス」に登録することで、新規のリコール情報等が提供されます。



<https://www.recall.caa.go.jp/>

お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構

製品安全センター 所長 川崎 裕之

担当者 製品安全広報課 宮川 七重、山崎 卓矢、清水 与也

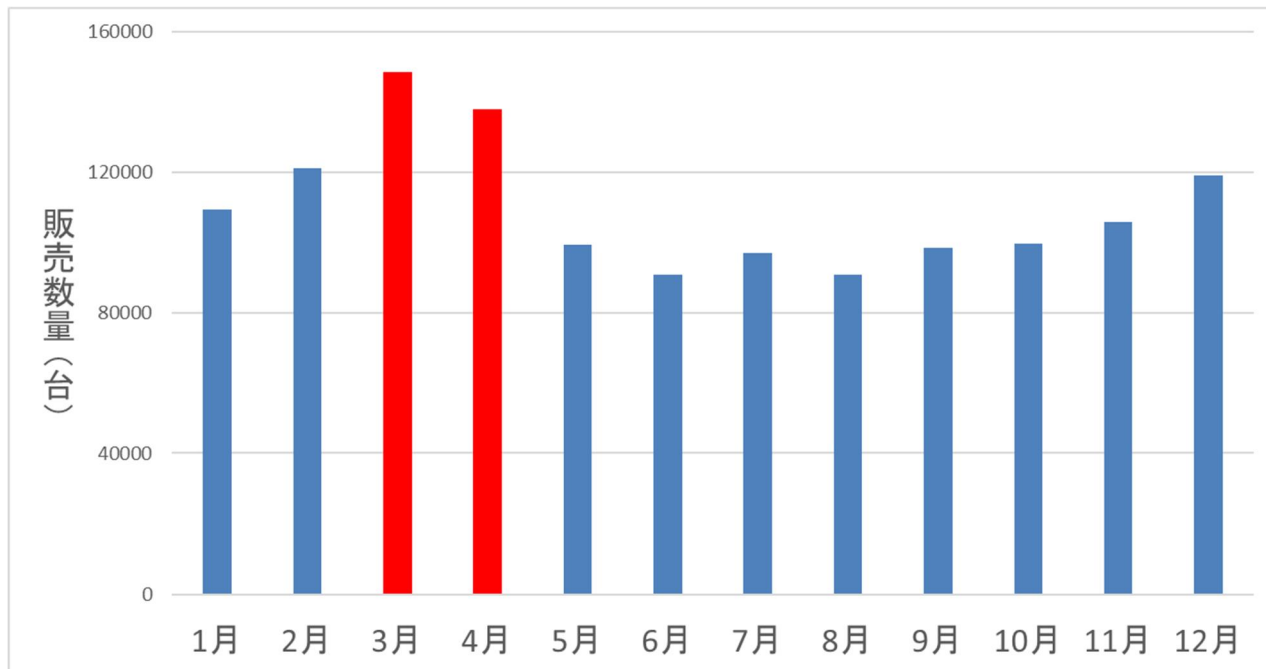
Mail : ps@nite.go.jp

Tel : 06-6612-2066

自転車の2024年の月別の販売数量

○一般財団法人自転車産業振興協会「自転車生産動態・輸出入統計・販売統計」

https://jbpi.or.jp/business/business/statistics/production_dynamics/list/



図：自転車の2024年の月別の販売数量

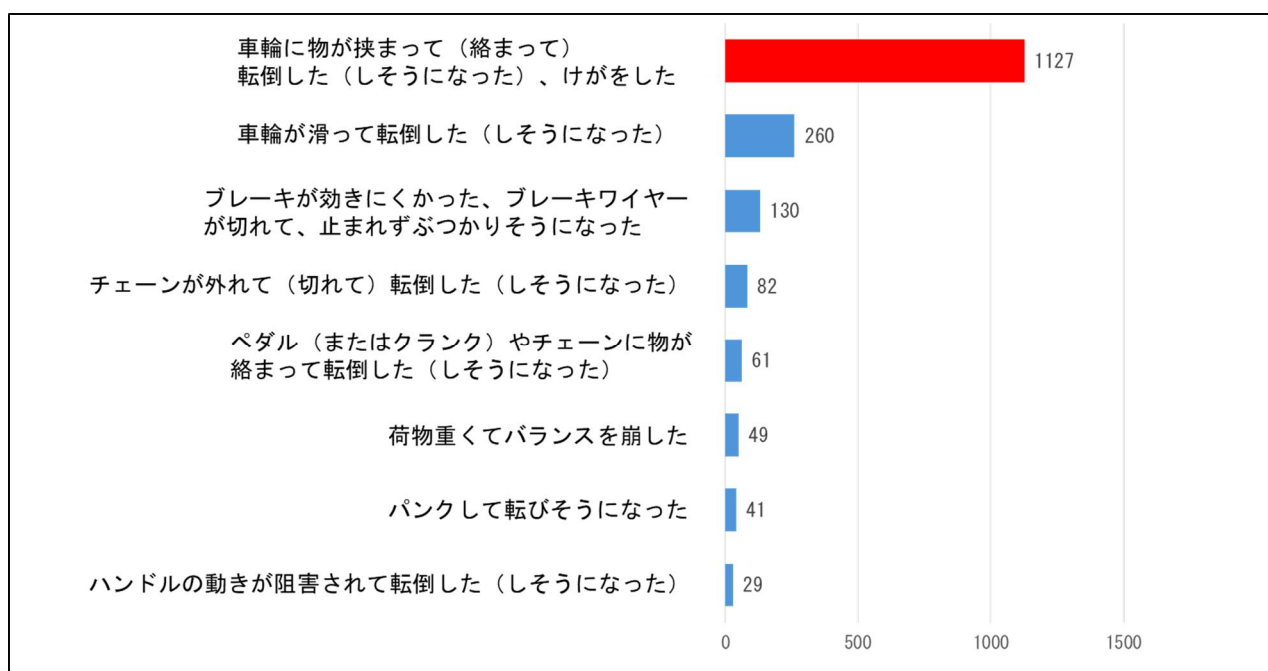
※2024年自転車生産動態・輸出入統計・販売統計（一般財団法人自転車産業振興協会）のデータより作成

NITE でのアンケート結果

「自転車でのヒヤリハット・事故の経験について」

NITE では、2025 年 3 月に実施した行動変容調査の中で自転車のヒヤリハット・事故の経験の有無と内容についてアンケートをしましたので、件数の多かった主な事例を紹介します。

- ・対象：全国 15～89 歳の男女（男性 42%、女性 58%）、調査人数：19,297 名、自転車の回答数（自由記述方式、※交通事故除く）：2161 件



図：自転車のヒヤリハット・事故情報のアンケート結果上位の主な事例（※交通事故、詳細不明除く）

（具体的な例）

○車輪に物等が挟まって（絡まって）転倒した（しそうになった）、けがをした

挟まった物：傘、スカート、服、ズボン、かばんや袋、かごや荷台のゴム紐、かごのカバー、足（ライトをつけようとした等）、後部座席の子ども足、マフラー、レインコート、木の枝、スカーフ、タオル、イヤホンのコード、ゴルフクラブ、釣り竿 等

○車輪が滑って転倒した（しそうになった）

滑った物・場所：歩道の段差、側溝の蓋・溝、雪、枯れ葉、（雨の日）点字ブロック、（雨の日）マンホール、（雨の日）金属の上、（雨の日）路面、砂利道 等

○ペダル（またはクランク）やチェーンに物が絡まって転倒した（しそうになった）

絡まった物：ズボン、スカート、靴紐、服、袋 等

○ハンドルの動きが阻害されて転倒した（しそうになった）、ぶつかりそうになった

原因：ハンドルにかけていた傘が本体のフレームに引っかかって、かばんの紐やイヤホンのコードがハンドルに引っかかって、エプロンのポケットにハンドルが入って 等

自転車の点検チェックリスト

自転車に乗る前には、自転車に以下のような異常が無いか確認してください。また、定期的に販売店などで自転車技士又は自転車安全整備士の点検を受けてください。

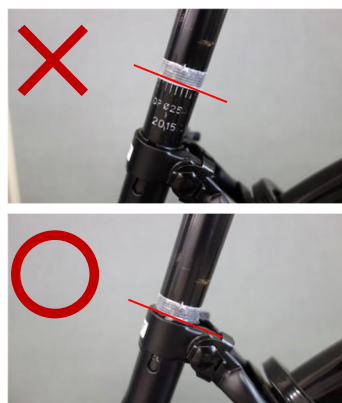
【乗車前確認】

(1) 車輪への巻き込みの確認

- どろよけに曲がりや外れなどはないか
- 走行時、ハンドルに傘や買い物袋などをかけていないか

(2) 固定部の締め付け不足・緩みの確認

- 前輪、後輪の取り付けに緩みや変形はないか
※クイックリリース方式の場合、レバーは推奨されている固定力と固定位置で正しく固定されているか
- ハンドル、ハンドルステム、ヘッドパーツは確実に締まっているか
- サドルのシートポストは確実に締まっているか（はめ合わせ限界標識が隠れているか）
- ペダルにがたつきや緩みはないか



サドルのはめ合わせ限界標識：赤線の下が隠れる高さで固定

固定部の締め付けが不足していたり、余分なたるみ、ゆがみがあると、走行中に車輪やハンドル、サドル、ペダルなどが脱落して、転倒するおそれがあります。締め付けは必ずトルクレンチを使用し、適正なトルクで行ってください。

(3) チェーンの確認

- チェーンにねじれ、余分なたるみがないか
- チェーンの油が切れていないか

(4) ブレーキの効きの確認

- 前後ブレーキレバーの引きしろ
- 前後ブレーキは適切に作動しているか

ブレーキの効きが甘い状態で乗車を続けると、走行中に制動不良などによって転倒するおそれがあります。また、自分だけでなく、歩行者などと衝突するおそれもあるため、必ず乗車前に確認してください。

(5) その他部品の確認

- タイヤの空気が不足してないか
- (トンネル内や夜間に乗車する場合) ライトは正しい角度で適切に点灯するか
- (トンネル内や夜間に乗車する場合) 反射板やテールライトは正しい角度で適切に点灯するか。

【定期点検】

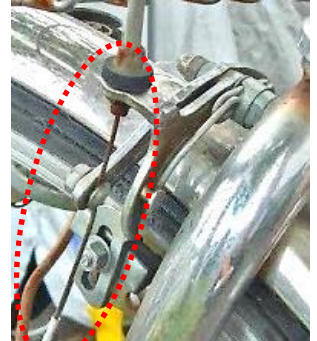
(1) 自転車本体への衝撃や荷重、さびなどによる強度不足の点検

- 本体（フレーム）に亀裂やさび、フレームパイプにしわ、膨らみなどが発生していないか

強度不足などによりフレームが破損して、走行中に転倒するおそれがあります。
販売店で点検を受けてください。

ブレーキ部品の点検

- 前後ブレーキ本体とフレームの固定は緩んでいないか
- 前後ブレーキシューの固定は緩んでいないか
- 前後ブレーキシュー・ブレーキパッドが摩耗していないか
- ディスクブレーキの場合はローターが摩耗していないか
- ブレーキワイヤーにほつれやさびがないか
- ブレーキワイヤーが伸びていないか
- ブレーキシューやブレーキパッドが当たるリムやローターに異物や傷が付いていないか



(写真) ブレーキワイヤーのさび

ブレーキに不具合があると、走行中に制動不良などによって転倒するおそれがあります。
ワイヤーがさびている場合は販売店で交換を行ってください。

(2) 車輪、その他の部品の点検

- 車輪のリムやスポークに変形や破損がないか
- タイヤが摩耗していないか
- その他、ボルトやナット、ねじに緩みがないか

(3) 【折りたたみ自転車】固定部分の点検

- 折りたたみ自転車の固定部分（ペダル、フレーム、ハンドルなど）は確実に固定されているか。

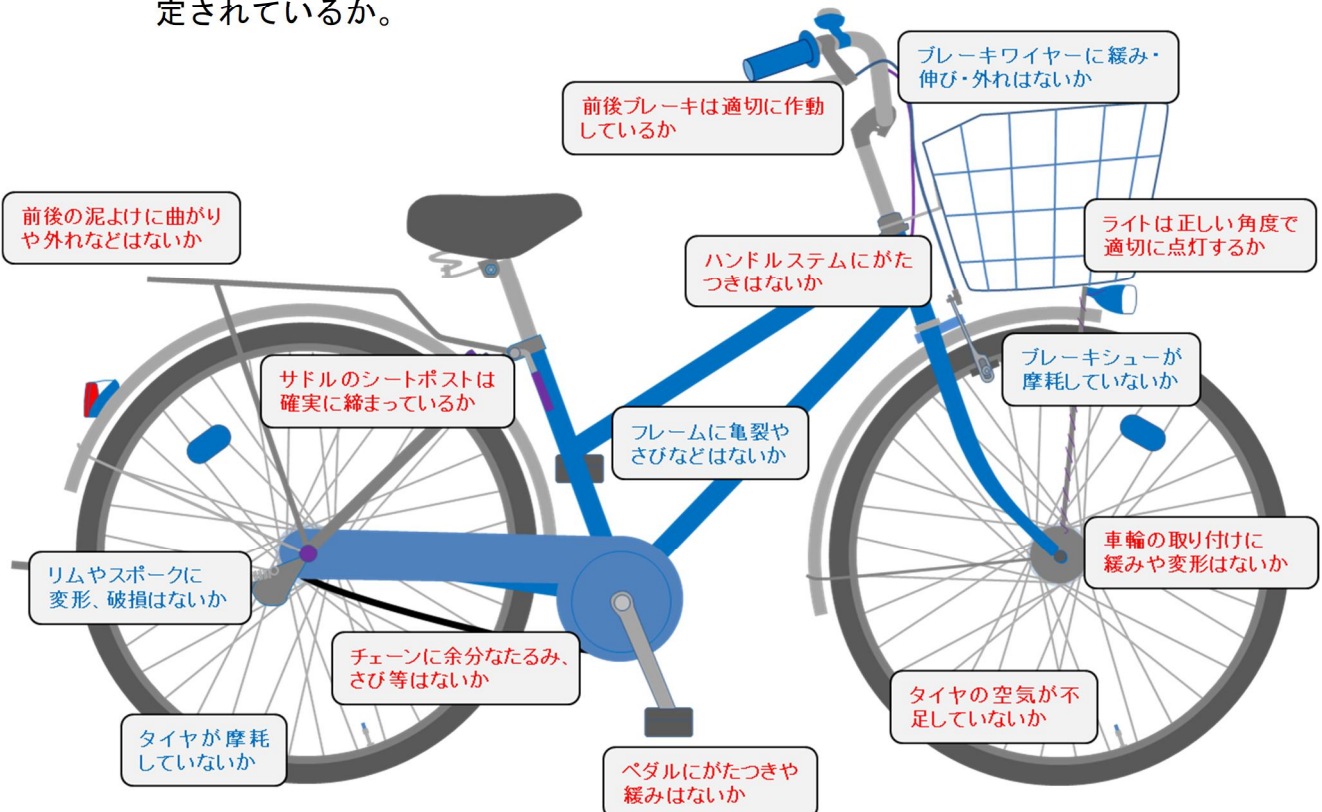


図 自転車の確認項目（赤字：乗車前確認、青字：定期点検）

自転車に子どもを乗せる際に気をつけるポイント

○耐荷重を確認する

リアキャリアに乗せることができる重さには車体ごとに上限があります。チャイルドシートと子どもの体重を合わせた重さがリアキャリアの耐荷重を超えないよう注意してください。子どもの体重が大きすぎた場合、発進時や上り坂で前輪が浮き上がってしまうおそれがあります。

○シートベルトとヘルメットを確認する

子どもにはヘルメットを着用させ、シートベルトで確実に固定されていることを確認してください。



○子どもは抱いて乗せ降ろしする

乗せ降ろしの際にシートの足乗せに強い力を加えたり、足乗せの上に立ちあがったりすると、想定以上の力が加わり足乗せを破損するおそれがあります。子どもは保護者が抱いて乗せ降ろししてください。



○子どもを乗せたまま離れない

子どもを乗せた自転車が倒れると、子どもが地面にぶつかり、けがのおそれがあります。決して子どもを乗せたまま駐車したり、自転車から離れたりしないでください。また、バランスを崩しやすいため、傾斜地などに駐輪しないよう注意してください。



公表日	品名	事業者名称	社告内容
自転車に係るリコール			
2019/6/24	自転車・電動アシスト自転車	<p>ブリヂストンサイクル株式会社 (法人番号：9030001041957)</p> <p>ヤマハ発動機株式会社 (法人番号：2080401016040)</p>	<p>[製品名及び型式] 商品名、機種、型番、製造番号： ハンドルロック「一発二錠」を搭載した自転車・電動アシスト自転車 (販売：ブリヂストンサイクル株式会社) 機種、型番、製造番号： https://www.bscycle.co.jp/pdf/important_20190624.pdf</p> <p>ハンドルロック「一発二錠」を搭載した自転車・電動アシスト自転車 (販売：ヤマハ発動機株式会社) 機種、型番、製造番号：https://www.yamaha-motor.co.jp/recall/pas/2019-06-24/pdf/2019-06-24_list.pdf</p> <p>[販売等期間] ブリヂストンサイクルブランド：2003年9月～2015年5月 ヤマハ発動機ブランド：2004年10月～2015年1月</p> <p>[リコールの内容] 「一発二錠」を搭載した自転車・電動アシスト自転車で、ハンドルロックのケースの破損などが原因で錠が誤作動し、走行時にハンドル操作が出来なくなるおそれがあるため。</p> <p>[対処方法] 無償点検・改修</p> <p>[問い合わせ先等] ブリヂストンサイクル「一発二錠」無償点検・改修お客様コールセンター ◆電話番号：0120-502-092 ◆受付時間：9:00～18:00 (月曜日～日曜日) ◆事業者 URL：https://www.bscycle.co.jp/info/2019/6624</p> <p>ヤマハ発動機「一発二錠」無償点検・改修お客様コールセンター — ◆電話番号：0120-801-309 ◆受付時間：9:00～18:00 (月曜日～日曜日) ◆事業者 URL：https://www.yamaha-motor.co.jp/recall/pas/</p>

公表日	品名	事業者名称	社告内容
自転車に係るリコール情報			
2022/10/11	自転車用 リム (自転車 用車輪の ステンレ ス製リム です)	ブリヂストンサイ クル株式会社 (法人番号： 9030001041957) ヤマハ発動機株式 会社(法人番号： 2080401016040)	<p>[製品名及び型式]</p> <p>販売事業者、商品名・車種名、車種略号、リムの製造期間、対象台(本)数： ブリヂストンサイクル株式会社 2016年12月～2020年12月 完成車515,274台、補修用リム23,337本</p> <p>ヤマハ発動機株式会社 2016年12月～2020年12月 完成車 68,325台、補修用リム6,779本</p> <p>[販売等期間]</p> <p>ブリヂストンサイクルブランド：2003年9月～2015年5月 ヤマハ発動機ブランド：2004年10月～2015年1月</p> <p>[リコールの内容]</p> <p>自転車用車輪のステンレス製リムについて、リムの破損が原因で走行時にバランスを崩すことによる事故が発生しているため。 ※リムとは、自転車の車輪を構成する金属製の輪の部分です。</p> <p>[対処方法]</p> <p>無償点検・改修</p> <p>[問い合わせ先等]</p> <p>ブリヂストンサイクル株式会社 「ステンレス製リム」無償交換お客様コールセンター ◆フリーダイヤル：0120-662-722 ◆受付時間：9:00～17:00(土日祝日・同社指定休日は除く) ※2022年12月28日までは、土日祝日も受け付けております。 ◆事業者URL：https://www.bsycle.co.jp/info/2022/10752</p> <p>ヤマハ発動機株式会社 「ステンレス製リム」無償交換お客様コールセンター ◆フリーダイヤル：0120-456-579 ◆受付時間：10:00～12:30/13:30～18:00 (土日祝日・同社所定の休日は除く) ◆事業者URL：https://www.yamaha-motor.co.jp/recall/pas/2022-pm018/</p>